



DANRYU

発行 (公財)鹿児島県国際交流協会 Kagoshima International Association

写真提供:鹿児島市

鹿児島で世界を語ろう～第21回外国人による日本語スピーチコンテスト～



最優秀賞 シュクリさん

平成28年1月9日の予選に、14カ国・地域から32名の外国籍の方が参加し、その中から選ばれた10名(5カ国・地域)の方が1月23日の本選に出場しました。最優秀賞を受賞したのは、マレーシア出身で、日置市の国際交流員のムハマド・シュクリ・ビン・ガザリさん(タイトル『食わず嫌い』)です。

シュクリさんが日本でマレーシアの文化紹介を行うと、マレーシアを代表する果物「ドリアン」は、それを食べたことのない日本人のあいだでさえも、強烈な臭いが原因でいつも嫌われものになってしまいます。しかし、実際に見たことも触ったこともない物を、どうして臭いと決めつけることができるのか。人それぞれ味覚も好みも異なるはずなのに、おいしくないと思えることができるのか。その考えがいかにもったいないかを、マレーシアに遊びに来た日本人の友人とのエピソードをもとに紹介し、「実際に見て、感じて、体験し、判断する」ことの大切さを、約360名の聴衆の前で訴えました。



本選出場者(前列)と審査員(後列)

他にも、出場者の皆さんは、夢に向かって日本で奮闘する自身の生活についてなどを、ユーモアを交えながら流暢な日本語で発表し会場を沸かせ、また時には涙を誘いました。本年度から会場が県民ホールへと移り、多くの聴衆の前で緊張した出場者もいたかと思いますが、堂々と自信をもって発表し、聴衆の皆さまの心を掴んでいました。今後も、一人でも多くの県民の皆さまに、国籍や文化の違いを越えた国際交流の場を提供できるよう、尽力していきたいと思ひます。

薩摩藩英国留学生派遣150周年記念事業



薩摩藩英国留学生記念館にて

平成27年は、薩摩藩英国留学生が英国に派遣されてから150年の節目の年となることから、平成27年11月29日に、小・中・高校生と保護者を対象に「親子で薩摩藩英国留学生の足跡をたどる歴史ツアー」を実施し、11組29名の参加がありました。

ツアーでは、いちき串木野市の薩摩藩英国留学生記念館、羽島の町歩き等を楽しみました。羽島の町歩きでは、歴史ガイドの案内で、留学生の滞在跡地等を訪ね、当時に思いを馳せました。同館では、留学生活や帰国後の活躍等についての解説があり、参加者は熱心に耳を傾けていました。また、鹿児島県等が行った「英国留学生派遣150周年記念薩摩

スチューデント派遣事業」に参加した高校生による体験発表もありました。ツアーを通し、留学生が日本の近代化、国際化に果たした役割等について考える良い機会となったのではないかと思います。

日本語・日本理解講座



日本語教室の様子

鹿児島で生活する外国の方々が、生活に役立つ日本語や、日本の生活習慣・様式等について学ぶ「在住外国人のための日本語・日本理解講座」を平成27年5月から平成28年2月まで全60回（水曜日クラス30回、木曜クラス30回）実施しました。

今年度は、各受講者が気になるニュースや話題について意見交換を行ったり、自国の手料理を持参し、他の受講者の前で料理の名前や味の説明等を行ったりしました。受講者は緊張しながらも、意欲的に日本語学習に取り組んでいたようです。

また、受講者は今年度も、多文化共生地域づくり事業（マナー講座・医療講座・防災訓練）にも積極的に参加しました。この一年間の日本語学習を通して、日本語だけではなく、地域社会で必要となる習慣や生活文化等についての理解も一層深めたようです。

日本語サロン おしゃべりひろば



ボランティアについてのフリートーキングの様子

日本語の日常会話が可能な外国の方々を対象に、フリートーキングを主な内容とする「日本語サロン おしゃべりひろば」を平成27年5月から平成28年3月まで、全20回実施しました。

毎回、ゲストから生活する上で役立つ情報をテーマとして話題を提供していただいております。鹿児島県行政書士会や鹿児島市情報システム課等の方々をお招きし、在留資格やマイナンバー制度等、生活に密着した内容を参加者が学びました。また、焼酎や茶道等の日本文化に携わるの方々をお呼びして、それぞれのテーマについて、参加者は日本文化に触れることができました。

参加者からは「自分の日本語に自信がついた。」「日本に長く住んでいても知らないことが沢山あることに気づいた。」「様々な国の友達ができ参加することが楽しみになった。」という声が寄せられました。

「おしゃべりひろば」をきっかけに参加者同士の輪が広がり、日本語を学ぶ意欲に繋がることを期待しています。

英語絵本の読み聞かせ講座



川辺図書室での読み聞かせの様子

幼少期から英語に触れる機会を提供することで英語への関心を高めることを目的とし、3才から小学生くらいまでの子どもを対象に国際交流員による英語絵本の読み聞かせ講座を14回実施し、そのうち3回は出張講座として指宿市、南九州市、いちき串木野市にて行いました。

出張講座を含めた4回は、国際交流員の出身地であるハワイにちなんだ絵本を読みました。英語と共に簡単なハワイ語が登場する場面もありましたが、子どもたちは熱心に耳を傾けていました。また、海洋生物の名前合わせゲームや歌『Slippery Fish』、紙でつくるハワイアンレイでは積極的に活動する子どもたちの姿が見られました。そのほか当協会会議室でおおむね月1回開催する際には、『大きなカブ』『ありとキリギリス』等の子どもたちにとって馴染み深い絵本やハロウィンなどのイベントにちなんだ絵本を読むことで、英語のみでも理解しやすく、楽しく英語に触れる機会となりました。

会議室でおおむね月1回開催する際には、『大きなカブ』『ありとキリギリス』等の子どもたちにとって馴染み深い絵本やハロウィンなどのイベントにちなんだ絵本を読むことで、英語のみでも理解しやすく、楽しく英語に触れる機会となりました。

多文化共生地域づくり事業

平成27年6月27日に、外国の方々に日本の生活習慣や冠婚葬祭のマナーについて知ってもらうことを目的とした「マナー講座～日本の結婚式とお葬式～」を行いました。国際ソロプチミスト鹿児島から講師をお招きし、7カ国21名の受講者が参加しました。

講座では、結婚式に招かれた際の「招待状の返信の書き方」、「祝儀袋の使い方」及び「葬式での焼香の作法」等を、実技を交えながら説明がなされ、受講者から「日本文化の礼儀正しさと、相手を敬う文化に感銘を受けた。」等の声が寄せられました。

また、昨年度に引き続き、外国の方々に日本の医療システムや病院での受診の流れを知ることとした「病院体験ツアー」や、鹿児島県・鹿児島市が主催する「桜島火山爆発総合防災訓練」にも外国人の方が参加しました。

受講者の方が学ばれたことがらが、日本での生活に活かされることを期待しています。



マナー講座の様子

県国際交流員による文化紹介講座

鹿児島県国際交流員（韓国・中国・アメリカ・シンガポール出身）の4名が、県民の国際理解を促進し、多文化共生の地域づくりへの関心を高めることを目的に、自国の文化や料理を紹介する講座を8回にわたり開催しました。鹿児島市での「シンガポール独立記念日～建国50周年」、西之表市での「ハワイとシンガポールの文化紹介」、湧水町での「ビストロ交流会」等、多くの県民の方が参加しました。

西之表市では小・中学生を対象に、アメリカ・ハワイ州出身のミシェル国際交流員とシンガポール出身のインヤン国際交流員が、パワーポイント、児童・生徒の興味をひく映像、体操、クイズを通じて、両国の文化を紹介しました。国や州の基本情報、歴史、料理、文化についての発表後、最後には参加者から「いつかハワイやシンガポールに行ってみたくて思いました。」という感想をいただきました。

今後も、この講座で県民の皆様と国際交流や文化の相互理解の促進を図っていただけることを期待しています。



参加児童・生徒と鉄砲館にて

県内在住外国人による公募型国際理解講座

県内に在住する外国人を講師として募集し、自国の文化を県民に紹介する公募型国際理解講座を、2回行いました。

ニュージーランド出身の講師による文化紹介講座では、マオリの伝統的なダンスで使用するポイ（ジャグリングの道具）の工作、手作りしたポイでダンスの体験を行いました。

参加者からは「ニュージーランドを身近に感じる事が出来た。」「体験型だったので、直接文化を味わえて勉強になった。」等の感想をいただきました。普段の生活で触れ合う機会の少ない外国人と県民の方々が、互いの存在や文化に親しみを帯びる場所となれるよう、今後もこの講座を行っていきたく思います。

また、今年度の日韓国交正常化50周年を記念して、各種韓国文化講座を3回行いました。参加者の皆様は、韓国出身の講師の説明に熱心に耳を傾けていました。感想として「近い国でありながら、知らないことばかりだった。今回の学びで少し世界が広がった。」等の意見がありました。



ニュージーランド文化紹介講座

鹿児島県青少年国際協力体験事業



JICAカンボジア事務所にて

学び、互いの理解を深めました。中高生にとって支援のあり方や自分たちの置かれている環境を見つめ直し、大きく成長した夏となりました。

第24回（平成27年度）報告書：<http://www.synapse.ne.jp/kia/international/taikenjigyo2015.pdf>

これまで延べ301名の中高生を東南アジアの6カ国に派遣してきた本事業は、鹿児島県青年海外協力隊を支援する会、青年海外協力隊鹿児島県OB会、当協会の3団体によって平成2年度より企画・実施されており、今年で24回目を迎えました。今年度は、平成27年7月19日から26日までの8日間、県内各地から選ばれた中高生16名をカンボジア、プノンペン近郊のカンダール州タクマウ市へ派遣しました。

現地では、クメール語でコミュニケーションをとり懸命に活動する青年海外協力隊員の姿に感銘を受け、4泊5日のホームステイや学校交流、王宮やトゥールスレン博物館の視察を通して、両国の歴史や文化を

協力隊OBと留学生が先生事業



曾於市立財部北小学校にて

らは「自分の好きな事を突き詰めて、だれかのためになる仕事をしたい。」「国の皆が協力して、戦争がなくなるような未来をつくりたい。」等の感想があり、未来を担う子供たちにとって、国際理解教育としてだけでなく、将来について考える大切な機会となっているようです。

鹿児島県青年海外協力隊を支援する会、青年海外協力隊鹿児島県OB会、当協会の3団体が実施しているこの事業は、年間40校以上、平成7年度の事業開始以来、延べ830校以上の県内小・中学校に、青年海外協力隊として世界各国で活動していた帰国隊員を講師として派遣しています。学校の希望により、留学生等県内在住外国人も同行し、母国の紹介を行うこともあります。（年間派遣校の約半数）

メディアを通しての情報ではなく、協力隊や留学生の体験談を直接聞くことは、「子供たちにとって、世界を身近に感じるよいきっかけとなっている。」と、先生方からご好評をいただいております。児童・生徒から

地域国際交流促進事業



民族衣装の紹介 MBC夏祭りの様子

スタンプラリー」「外国の切手を使ったしおり作り」を行いました。

民族衣装の紹介では、県国際交流員や留学生等が、色彩豊かな民族衣装を身にまといステージに登場すると、その場は一気に華やかな雰囲気になりました。

本事業では、国際交流への関心を高めてもらう目的で、地域在住の外国籍の方々や国際交流団体と連携し、県内各地のイベントに当協会の国際交流ブースを出展しています。今年度は鹿児島市の「MBC夏祭り」、薩摩川内市の「薩摩川内市国際交流協会設立10周年記念・国際交流フェスタ」、いちき串木野市の「地かえて祭り」、日置市の「まるごと伊集院フェスティバル」にブースを出展しました。

平成27年7月に行われたMBC夏祭りでは、鹿児島市国際交流財団と共に国際交流ブースを出展し、協会のパンフレット配布のほか、県国際交流員や留学生、在住外国人と一緒に民族衣装の紹介と「世界の挨拶

韓国全羅北道文化探訪団派遣事業

全羅北道庁の御厚意と御協力のもと県民を全羅北道に派遣する事業も、今年度で7回目となりました。今年度は全羅北道でテコンドーを学ぶ青少年と鹿児島で空手を学ぶ青少年の交流を推進したいとの全羅北道庁の御提案を踏まえて、鹿児島県空手道連盟の指導者を始め13名の青少年が、平成27年11月4日から8日に全羅北道を訪問しました。

4泊5日の滞在中は、百済文化が色濃く残る益山弥勒寺址、王宮里遺跡等、伝統家屋が並ぶ全州韓屋村等の視察を通して韓国の歴史に触れたほか、全羅北道発祥とも言われる全州ビビンバ等、伝統的な食事をいただき韓国の魅力を堪能することができました。

また、2017年に「世界テコンドー選手権大会」が開催される国立テコンドー園では、テコンドーの師範団の皆様を始めテコンドーを学んでいる学生達との交流の機会もあり、派遣団員からは「テコンドーの練習を一緒にやって刺激を受けた。」との声がありました。

鹿児島の青少年にとって、韓国が身近な存在となり、この体験が将来両国のスポーツ交流の架け橋となってくれることを願っています。



テコンドーを学ぶ韓国の青少年との交流の様子

香港城市大学専上学院日本語研修

日本語を学ぶ香港城市大学専上学院の学生11名が来鹿し、平成27年7月5日から7月27日までの23日間、日本語学習を始め、7泊8日のホームステイ、浴衣着付け・茶道体験、日本料理作り、おごんさあ参加等を含む研修を行いました。

今年度初めて実施したマンガ講座では、マンガプロジェクト鹿児島の皆様から、マンガの歴史について学び、それぞれの思いを込めたオリジナルの4コマ漫画を作成しました。学生たちは、先生方から専門的なアドバイスをいただき、「貴重な体験ができた。」と、嬉しそうでした。また、不安と緊張で始まったホームステイでは、ご家族の皆様のおしやすさに触れ、ホームステイ最終日には、「第2の家族ができた。」「必ず鹿児島に戻ってくる。」と、涙ぐむ学生もおり、忘れられない思い出となったようです。

日本への知識・関心を更に深めて香港へ戻った11名の学生たちが、今後鹿児島と香港の架け橋へとなくなってくれることを願っています。



浴衣着付け体験

鹿児島県青少年海外ふれあい事業

鹿児島県青少年海外ふれあい事業として、シンガポール青少年の受入れを平成27年10月14日から20日の日程で行いました。シンガポール人民協会青少年会から選抜された6名は、学校訪問、日本文化体験、ファームステイ体験、介護老人保健施設訪問等様々な活動を行いました。また、一部プログラムにおいては、交流ボランティアとして鹿児島の青少年の参加がありました。言語の違いや時間の制限があるなかで積極的な交流を行い、友好的な関係が築かれました。

この一週間を通してシンガポール青少年は、県民の方々と心を通わせ、県内各地の訪問先の風景、空気、味に触れ、鹿児島を深く理解されたようです。

また、平成27年9月24日から10月1日の8日間においては、シンガポール青少年の受入れと同様に、香港青少年の受入れも行いました。

本事業に参加された皆様の中に生まれた相互理解と友情が、今後、両国・両地域の友好関係を支えるものとなることを期待しています。



出水市立米ノ津中学校訪問

青年海外協力隊員50周年記念 in 鹿児島

平成27年は青年海外協力隊発足50周年の大きな節目の年でありました。発足後これまでに4万人にも上る隊員が88カ国で開発途上国の発展に寄与するために活動してきました。同年8月29日鹿児島東急REIホテルにて「青年海外協力隊50周年記念 in 鹿児島」を実施し、鹿児島での50年の歩みを振り返るとともに、日頃より支援、協力をいただいている関係者の皆様と、県内の元隊員との良い意見交換の場となりました。

記念講演では、フリーキャスターとして活躍されている伊藤聡子氏を講師に招き、「私が見た国際協力の現場～開発途上国で活躍する青年海外協力隊～」と題して講演いただきました。

その他にも県内の初代協力隊員や帰国したばかりの隊員をパネリストとして迎え、活動を通して得たことや今後のキャリア形成についてもお話しいただきました。時折感心したり納得したりしながら、熱心に耳を傾けている来場者の様子が印象的でした。また、現在派遣中の隊員のメッセージ紹介や、隊員時代に任地で習得したダンスや楽器演奏の披露も多数あり、会場全体が楽しい空気に包まれました。

この記念事業は今後の国際協力や社会還元のあり方について再認識する場となったのではないのでしょうか。世界との関わりなくして我が生活は成り立たない＝相互援助の精神、世界で起きている様々な問題から目を背けない＝人道的観点。50年が単なる区切りではなく、「県民と新たに考える国際協力」のスタートとなることを期待します。



鹿児島県初代隊員らによるパネルトーク



記念事業に花を添えたパラグアイダンス

鹿児島県国際交流協会内には、JICA 事業の窓口として「JICA デスク鹿児島」があります。JICA が実施している事業や国際協力にご興味のある方は、お気軽にお問い合わせください。
【JICA デスク鹿児島】TEL: 099-221-6624 (直通) E-mail: jicadpd-desk-kagoshimaken@jica.go.jp



国際交流プラザのご案内

- ・ イベント情報等の掲示板
- ・ 国旗、民族衣装、地図、ユニセフビデオの貸し出し
- ・ 外国語新聞、図書、雑誌等の閲覧
- ・ 在住外国人の生活相談
- ・ 中国語ランチタイムトーク (毎週火曜12:00~13:00)
- ・ 韓国語ランチタイムトーク (毎週水曜12:30~13:30)
- ・ ランチタイムイングリッシュクラブ (毎週金曜12:00~13:00)



国際交流に関するご質問、JICAに関するお問い合わせや、ホストファミリー・語学ボランティアの登録については、随時受け付けております。お気軽にお立ち寄りください。

《開館時間》 9:00~17:00 (火曜日~日曜日)
《休館日》 月曜日 (但し祝日の場合はその翌日)
年 末 年 始 (12月29日~1月3日)



【国際交流プラザ、本誌に関する問い合わせ先、相談窓口】 **公益財団法人 鹿児島県国際交流協会**
〒892-0816 鹿児島市山下町14番50号 かがしま県民交流センター1階 TEL: 099-221-6620 FAX: 099-221-6643
E-mail: kia@po.synapse.ne.jp E-mail: kia8@po.synapse.ne.jp (相談窓口専用)
ホームページ: <http://www.synapse.ne.jp/kia/> Facebook: <https://www.facebook.com/Kagoshima.Intl.Assoc/>